株式情報／会社情報　2018年9月30日現在

会社の概要

会社名	東洋合成工業株式会社
本社	東京都台東区浅草橋1丁目22番16号 ヒューリック浅草橋ビル8階
設立	1954（昭和29）年9月27日
資本金	1,618,888,703円
従業員数	674名（2018年9月30日現在）
事業内容	1. 有機工業薬品・有機溶剤等の製造並びに販売 2. 画像形成用の感光性材料の製造並びに販売 3. 電子表示機器の材料等の開発、製造並びに販売 4. 電池材料並びに電気二重層材料等の研究開発、製造並びに販売 5. 酵素蛋白、細胞を特定形状化するための感光性樹脂の研究開発、応用品の製造並びに販売 6. 倉庫業（液体化学品の保管管理） 7. 貨物運送取扱業
ホームページ	https://www.toyogosei.co.jp/

役員

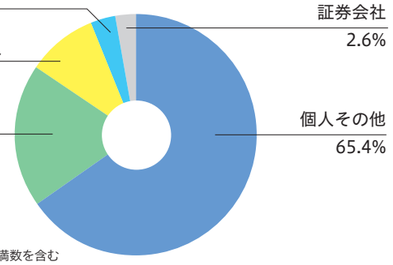
代表取締役社長	木村　有仁	常勤監査役	森　寧
常務取締役	出来　彰	監査役	宮﨑　誠**
取締役	渡辺　宏一		越山　滋雄**
	宮澤　貴士		
	平澤　聡美		
	渡瀬　夏生		
	鳥井　宗朝*		

*社外取締役
**社外監査役

株式の状況

発行可能株式総数	30,000,000株
発行済株式総数	8,143,390株
株主数	6,059名

株式の分布状況



＊自己株式を除く単元未満数を含む

大株主

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
木村　有仁	1,094	13.8
木村　愛理	583	7.4
株式会社千葉銀行	298	3.8
株式会社きらぼし銀行	298	3.8
木村　正輝	278	3.5
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	248	3.1
株式会社TGホールディング	200	2.5
公益財団法人東洋合成記念財団	200	2.5
日本マスタートラスト信託銀行 早稲田大学・管理信託口	200	2.5
日本マスタートラスト信託銀行（信託口）	164	2.1

当社は、自己株式を206千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
また、持株比率は自己株式（206千株）を除外して計算しております。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月下旬
剰余金の配当の基準日	3月31日　中間配当を実施するときは9月30日
定時株主総会基準日	毎年3月31日　※その他必要がある場合は、予め公告いたします。
単元株式数	100株
公告方法	電子公告により行います。 公告掲載URL https://www.toyogosei.co.jp/ir/koukoku.html ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載する方法により行います。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号　みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社　本店証券代行部
株式の諸手続き	口座を開設されている証券会社までお問い合わせください。 特別口座をご利用の株主様は、みずほ証券株式会社およびみずほ信託銀行株式会社0120-288-324（フリーダイヤル）までお問い合わせください。

東洋合成工業株式会社
〒111-0053　東京都台東区浅草橋1丁目22番16号
ヒューリック浅草橋ビル8階
TEL 03-5822-6170

VEGETABLE OIL INK　UD FONT

TOYO GOSEI

第69期 第2四半期報告書

2018年4月1日 ▸ 2018年9月30日

JASDAQ
証券コード：4970

業績ハイライト

▮決算概要

当第2四半期は、半導体、ディスプレイ、電子材料の市場環境が良好に推移し、感光材並びに電子材料向け高純度合成溶剤の販売が増加したことなどにより、売上高は前年同期比8.8%増の11,177百万円となりました。営業利益は、感光材の生産能力増強に伴う先行費用を消化し、同4.5%増の801百万円、経常利益は為替評価益の計上などもあり、同15.6%増の842百万円、四半期純利益は前期に特別利益で遊休資産の売却益を計上したことなどにより、同6.5%減の550百万円となりました。

		前年同期比
売上高	11,177百万円	8.8%
営業利益	801百万円	4.5%
経常利益	842百万円	15.6%
四半期純利益	550百万円	△6.5%

▮当第2四半期のポイント

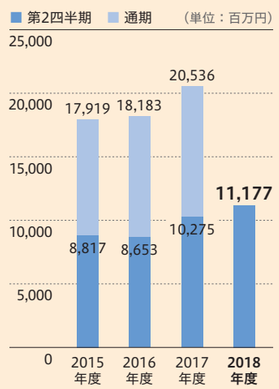
POINT 1　前期に特別利益の計上を行ったことから、四半期純利益は前年同期比では減益

POINT 2　感光性材料事業は、半導体向け感光材・ディスプレイ向け感光材ともに販売増、一方で設備投資による先行費用増により、増収・減益

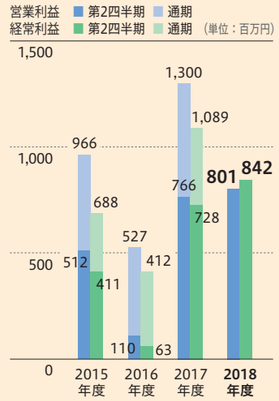
POINT 3　化成品事業は、電子材料向け高純度合成溶剤製品の販売が堅調、ロジスティック部門もタンク契約率・回転率ともに高水準で推移し、増収・増益

業績概要

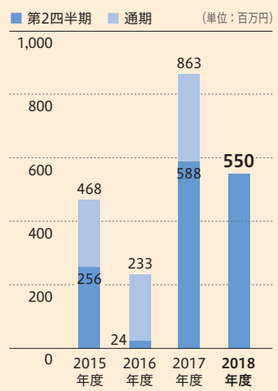
売上高



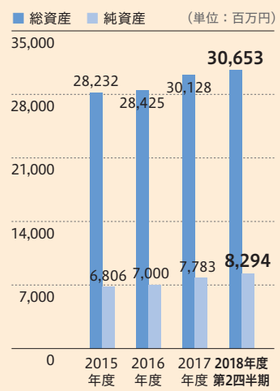
営業利益／経常利益



四半期（当期）純利益



総資産／純資産



代表取締役社長
木村 有仁

「TGC300」を実行し、更なる成長を目指します。

当第2四半期の決算概要

米国では、企業収益の改善や好調な雇用環境を背景に景気拡大が続き、欧州でも緩やかな拡大が続きました。また中国経済は、成長率が鈍化しているものの、成長が継続しております。一方国内では、企業収益の拡大により雇用・所得情勢が改善され、緩やかな景気拡大が続いております。当社の主な需要先である半導体市場では、昨年から世界的な需要の拡大が続き、ディスプレイ市場、香料市場も安定成長が続きました。また国内の化成品の荷動きも、堅調に推移しております。

このような環境下、当社では、お客様との関係強化、積極的な拡販、新製品の開発、コスト削減を進め、当第2四半期の売上高は、前年同期比8.8%増の11,177百万円、営業利益は、同4.5%増の801百万円、経常利益は、15.6%増の842百万円と増加し、四半期純利益は、前期に特別利益の計上があったため、同6.5%減の550百万円となりました。

2019年3月期 通期業績予想の修正について

引き続き、半導体・フラットパネルディスプレイ向け感光材製品、高純度溶剤製品を中心に、市況の好調が見込まれることから、2019年3月期の業績予想を、通期売上高22,500百万円(前期比9.6%増)、営業利益1,400百万円(前期比7.7%増)、経常利益1,350百万円(前期比24.0%増)、当期純利益830百万円(前期比33百万円減)と、上方修正いたしました。

中期経営計画「TGC300」について

当社は、2018年8月10日に、5ヵ年の中期経営計画「TGC300」(2019年3月期～2023年3月期)を発表させていただきました。ビジョンに「顧客課題、技術課題一つ一つを真摯に独創的な視点で解決し、超高品質と生産性を両立し、世界No.1ダントツ企業となる。」を掲げ、2023年3月期売上高は1.5倍の300億円以上、経常利益は3倍の30億円以上、経常利益率10%以上を目標とし、本計画期間の戦略設備投資を120億円といたしました。

取り組み状況について

感光材セグメントでは、生産能力の増強に取り組んでおります。電子デバイスの普及と情報通信技術の進化により、人々は一層の高い利便性を求め、世界規模で生活が大きく変わろうとしております。当社製品の主要な需要先である電子デバイス市場では、ビッグデータ、IoT、AI、電気自動車や自動運転の進歩など、第四次産業革命といわれる技術革新を背景に、データ量が飛躍的に増大し、5G等の次世代超高速通信網の整備なども計画され、半導体のより一層の高性能化が求められております。このようなニーズにお応えするため、当社では、超高純度合成力・精製力を生かし、今後需要が拡大する、高性能半導体製造に必須となる、超高純度感光材や溶剤を生産性高く、安定的に供給することを目指しております。そのため、前期から感光材分野の生産能力の増強を積極的に進めており、既存設備を生かした生産能力増強工事は、当下期でほぼ完了する見込みです。また中期的には更なる製品供給能力の増強に向け、新たな製造棟の建設計画もスタートしております。

化成品セグメントでも、世界的な半導体需要の増加により、高品質・高純度な機能性化学品の需要拡大が予測されております。これまで当社が蓄積してきた高純度合成技術と精製技術をさらに磨き、お客様のご要望品質を満たす製品を安定供給するため、技術開発に取り組んでまいります。またロジスティック分野についても、今年6月には、当社油槽所の至近の外環道区間が開通し、関東一円に向けた輸送の利便性が大きく改善いたしました。油槽所では、将来の自動化へ向けた取り組みを加速し、更なるサービス品質と顧客満足度の向上に努めてまいります。

株主還元について

株主の皆さまへの還元につきましては、安定配当の維持を基本としつつ、業績、配当性向、財務バランスなどを総合的に勘案して決定しております。これらの方針を踏まえ、当期の中間配当は、期初計画通り、1株当たり5円とさせていただきました。今後も、業績、財務とのバランスを勘案しつつ、株主の皆さまへの還元を行っていきたいと考えております。

株主の皆さまにおかれましては、何卒、当社にご理解を賜り、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

TOPIC

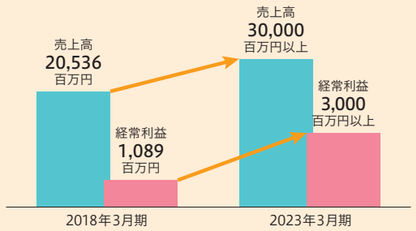
中期経営計画「TGC300」を策定

2018年8月10日に、2019年3月期～2023年3月期の5年計画である、新中期経営計画「TGC300」を発表しました。現在、日常生活のなかで電子デバイス等を使用する場面が急速に拡大しており、電子材料の微細化・高機能化が一段と進むなかで、高性能な機能性材料がより一層必要となってきております。当社は、これまで蓄積してきた高純度合成力、精製技術により磨きをかけ、顧客品質を満たす安定供給体制を強化し、世界の技術革新に資する人・組織・事業の三立の実現を目指すことをコンセプトに、本中期経営計画を策定しました。「顧客課題、技術課題一つ一つを真摯に独創的な視点で解決し、超高品質と生産性を両立し、世界No.1ダントツ企業となる。」をビジョンに、数値目標の達成に向けて、まい進してまいります。

2023年3月期の数値目標

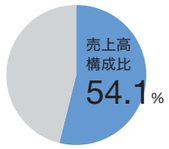
売上高	300億円以上
経常利益	30億円以上
経常利益率	10%以上
戦略設備投資 (中期経営計画期間累計)	120億円

売上高・経常利益



セグメント情報

感光性材料事業

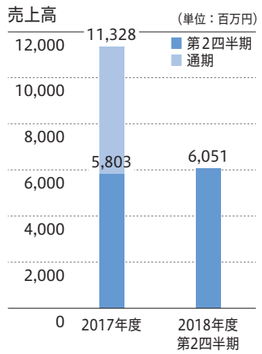


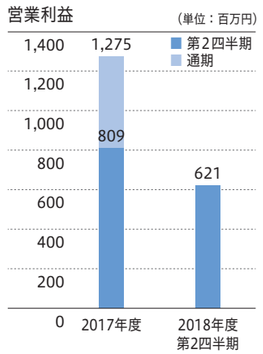
売上高 6,051 百万円 前年同期比 4.3%増 | 営業利益 621 百万円

業績の概況

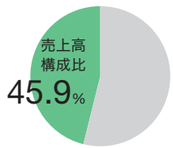
半導体向け感光性材料は、IoTによる電子デバイス使用量の大幅増加、およびデータ通信量増大によるDRAM、および3次元フラッシュメモリーの需要増、堅調なLCDマーケットにより、旧世代の感光性材料も昨年度に引き続き好調な販売となりました。一方、スマートフォン先端機種の販売低下により、該当機種搭載の一部感光性材料がやや軟調となったものの、新たに新規EUV世代向け感光性材料の販売が開始され、新製品販売が増加しました。

この結果、同事業の売上高は6,051百万円(前年同期比+4.3%)、営業利益は621百万円(同△187百万円)となりました。



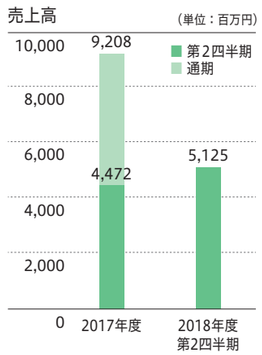
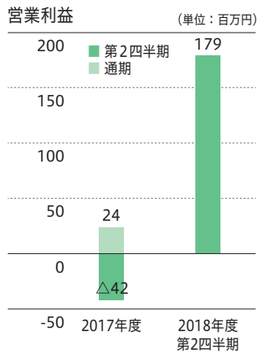


化成品事業



売上高 5,125 百万円 前年同期比 14.6%増 | 営業利益 179 百万円

業績の概況

化成品部門は、IoT化の進むなか、需要が旺盛である情報処理向けの半導体メモリー分野やスマートフォン、EV(電気自動車)向け部材といった成長率の高い領域において、お客様が生産量を伸ばしていることにより、電子材料向け高純度合成溶剤製品の販売が堅調に推移しました。一方、香料分野では海外香料メーカーへの販売は伸び悩んだものの、国内顧客向けのシェア拡大により、全体的には前年並みの販売となりました。ロジスティック部門は、顧客満足度向上に努めた結果、タンク契約率、回転率ともに高水準で推移しました。

この結果、同事業の売上高は5,125百万円(前年同期比+14.6%)、営業利益は179百万円(同+222百万円)となりました。